


 仙台大学 広報室
Monthly Report

硬式野球部、熊原健人投手(体育学科3年)が 大学日本代表に選出される



全日本大学野球選手権・準々決勝の神奈川大学戦に先発し力投する熊原投手＝神宮球場

くまばらけんと

本学硬式野球部の熊原健人投手(体育学科3年一宮城・柴田高校出身)が、「第27回ハーレム国際野球大会」(オランダ・ハーレム、7月11日から10日間)に出場する日本代表の24人に選出されました。本学からの大学日本代表の選出は、初の快挙。熊原投手の背番号は「19」に決定しました。引き続き、熊原投手にご注目頂ければ幸いに存じます。

<熊原健人投手のコメント>

日本代表に選ばれたからには、日の丸を背負い、優勝を目指して頑張ります。多くのことを吸収して、自分の成長につなげたいです。

PROFILE

熊原 健人(くまばら けんと) / 大学野球日本代表



1993年(平成5年)10月19日生まれ。宮城県角田市出身。
 175cm/70kg。右投げ右打ち。血液型O。
 趣味は水泳。好きな食べ物はヨーグルト。
 ニックネームはクマ。
 宮城・柴田高校では1年秋から控え投手でベンチ入り、
 3年春は背番号1。
 仙台大学では2年春に初のベンチ入り。
 3年春に最優秀選手とベストナインを受賞。

< 目 次 >

硬式野球部、熊原健人投手(体育学科3年)が大学日本代表に選出される	1
平成26年度みやぎ県民大学 仙台大学開放講座	2
日本レクリエーション協会 平成26年度 全国研究集会・総会	2
日本体育科教育学会第19回大会 in仙台大学を開催	3
2020年東京オリンピック・パラリン ピック競技大会大学連携協定締結 式・記念シンポジウム	4
学生の競技結果	5

学生の活躍や、取り組みをご存知でしたら
 広報室までお寄せください。

Monthly Reportで紹介する他、報道機関
 にも旬な話題を提供していきたいと考えて
 おります。

本誌へのご意見・ご質問等がございましたら、
 広報室までご一報ください。

広報室

直通 0224-55-1802

内線 佐藤美保 256

渡辺誠司 271

土生佐多 200

Email:kouhou@sendai-u.ac.jp

平成26年度みやぎ県民大学仙台大学開放講座



5月29日（木）から6月19日（木）までの毎週木曜日全4回にわたり、みやぎ県民大学仙台大学開放講座が開催されました。

今年のテーマは「いきいき健康ライフ」。講義や軽運動を通じていきいきとした生活を送るための講座を、栗木一博教授、山口貴久講師、横田由香里講師、河野未来助教がそれぞれ担当しました。

定員80名のところ122名からの応募があるなど大好評で、毎回講座を楽しみにして来学された受講者が、今後の生活に生かそうと熱心に耳を傾けていました。

最終回の6月19日（木）の講座終了後には閉講式が開催され、期間中3回以上出席した受講者99名に対して阿部学長より修了証が手渡されました。

受講者からは「受講したことを参考にして、今後に生かしていきたい」などの感想が寄せられ、地域の方々の健康ライフの一助となったようです。

この事業は平成4年度から宮城県教育委員会の主催行事で本学が主管として開講しているもので、これまでに延べ2200名以上の方が本学で受講されています。

<報告：事業戦略室 石森靖明>

日本レクリエーション協会 公認指導者養成課程認定校研究連絡会主催 平成26年度 全国研究集会・総会



6月7日（土）～8日（日）の2日間、遠刈田地区公民館ホールで、日本レクリエーション協会公認指導者養成課程認定校研究連絡会主催の「平成26年全国研究集会・総会」が行われました。

本年度は、北海道東北ブロックを代表して、仙台大学が幹事校となり、企画運営を行いました。参加者総数は約80名で、北は北海道、南は九州・沖縄からレクリエーション担当の先生方にお集まりいただきました。

本研究会では「スポーツツーリズムと観光レクリエーション」をテーマに、観光庁により推進されているスポーツツーリズムの展望と観光地である蔵王町の取組事例について、議論が交わされました。当日（6月8日）は、残念ながら雨天のため、蔵王連峰の美しいシンボル「お釜」のトレッキングは中止となりましたが、世界的に有名なパフォーマーを集めた「大道芸フィスティバル」やマスコミ等でも話題の「遠刈田こけし作り」など、蔵王町の観光レクリエーションを楽しんでいただきました。

本学の阿部芳吉学長にはご挨拶を頂戴し、弓田恵理香助教にはパネリストとして、教務課の伊勢裕介職員には大会事務局業務を、また今回参加していただいた本学卒業生12名（他校教員）の協力を得て成功裏に全国研究集会・総会を終えました。

<報告：准教授 高崎義輝>

大学生健全育成ボランティア「ポラリスみやぎ☆」結団式



大学生健全育成ボランティア「ポラリスみやぎ☆」は、少年と年齢が近く、また少年の非行防止及び健全育成活動に意欲と熱意のある宮城県内の大学生をボランティアとして登録し、社会参加活動の支援や街頭補導活動を通じて、少年の健全育成に寄与することを目的とし、平成16年から活動しています。

今年度仙台大学からは5名の学生がボランティアとして登録しており、大河原署の管轄として今後活動に励むこととなります。今回の結団式では全体の顔合わせと大河原署の方との今後の活動についてのグループ討議を行ないました。

学生たちの中には将来警察への就職を志望している者が多く、当たり前のことではありますが、県警の方々への挨拶はもちろん、終始活動に意欲的な態度をみせ、感心する場面が多々みられました。グループ討議では積極的に発言し、それぞれが出し合ったアイデアを基に討論を行ないました。全体としてとても有意義な内容となり、今後の活躍に期待したいです。

<報 告：学生支援室 野村早紀
我妻晃旗>

去る6月25日（水）、宮城県警察本部で行われた「ポラリスみやぎ☆」結団式に本学の学生3名および担当職員2名にて出席しました。

日本体育科教育学会第19回大会in仙台大学を開催



日本体育科教育学会（会長：池田延行<国士舘大学>）主催の学会大会（第19回）が、6月21日（土）・22日（日）に、仙台大学において開催されました。大会1日目は、「21世紀型能力」とこれからの学校体育」をテーマとするシンポジウムと、「現行学習指導要領の成果と課題—体育授業実践を踏まえて」をテーマとする意見交換が行われました。

シンポジウムでは宮城県開催ということで、シンポジストとして、仙台市教育センター指導主事の高橋清氏にご登壇頂きました。また、意見交換では、運動領域別に

分科会が行われ、上記テーマに基づいて様々な意見が出されました。ここでの意見は、学会として整理した上で、次期学習指導要領改訂に向けての提言として文部科学省に提出する予定となっています。大会2日目は、学会員が話題を提供し、参加者と双方向で議論する「ラウンドテーブル」が行われました。ラウンドテーブル数は8つと例年と比べて多く、それぞれの会場で活発な議論が展開されました。大会参加者（一般）は195名であり、宮城県及び仙台市教育委員会から後援を頂いたことにより、宮城県から多くの学校関係者も参加していました。また、一般参加者とは別に、本学からも教職員および約60名の学生も参加しました。このことは、本大会が学会として成功しただけでなく、本学にとっても大変有意義なものであったと思われまます。本大会を開催するにあたり、会場をご提供頂いた仙台大学および関係者の方に感謝申し上げます。来年度の大会は、6月に横浜国立大学を会場にして開催することになっています。

<報 告：大会実行委員長（仙台大学教授）
長見 真>

2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会大学連携協定締結式・記念シンポジウム



2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会のための大学連携協定締結式および記念シンポジウムが、2014年6月23日（月）早稲田大学の大隈記念講堂にて開催されました。これは、一般財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会が主催し、早稲田大学・筑波大学が共催して行われたものです。

今回締結式とシンポジウムには、森喜朗組織委員会会長、川淵三郎組織委員会評議員、そのほか組織委員会関係者や協定を締結した全国552の大学・短期大学のうち267校からの代表が出席しました。本学では、阿部芳吉学長（写真上段右から6番目）とソチ冬季五輪にボブスレー日本代表として出場した黒岩俊喜選手（運動栄養学科3年一神奈川・橘高校出身）が仙台大学の代表として参加しました。

「第1部」の連携協定締結式では、主催者を代表として大会組織委員会会長の森喜朗氏が挨拶し、次いで、4人の代表者 鎌田薫氏（早稲田大学総長）、川淵三郎氏（首都大学東京理事長）、土井杏南氏（大東文化大学1年）、山崎福太郎氏（信州大学4年）が挨拶しました。

続いて、AISTS 会長ジャン・アンダー・マンソン氏がお祝いの言葉を述べ、「第1部」の最後には、各大学代表者およびアスリートが2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の成功に向けて記念撮影を行ないました。

「第2部」の記念シンポジウムでは、武藤敏郎氏（組織委員会事務総長）が基調講演を行ない、続いて、真田久氏（筑波大学教授・組織委員会参与）、布村辛彦氏（組織委員会副事務総長）、クラウド・ストリッカー氏（AISTS事務局長）、田中利恵氏（組織委員会理事）、永富良一氏（東北大学大学院教授）によるシンポジウムが行なわれました。その後、会場との意見交換を通じて、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催に向けて「大学ができることや役割」について活発な議論が行なわれました。

<報 告：仙台大学東京事務所
研究員 金 賢植>

一般社団法人栄養士養成施設協会第3回通常総会

日時 平成28年6月26日午前11時より

場所 宮城県・江陽グランドホテル

第3回通常総会出席者名簿

一般社団法人全国栄養士養成施設協会

社団法人から一般社団法人へ移行してから初めての総会が開催され、収支決算の報告や事業計画の他、今後の協会運営を円滑にするために多くの活発な意見が挙げられた。現在、栄養士養成施設協会に入会している管理栄養士・栄養士養成施設校は98.1%（257施設）である。

これだけ多くの栄養士養成施設があるのは世界でも

日本だけであり、栄養・食について関心が高いことがうかがえる。

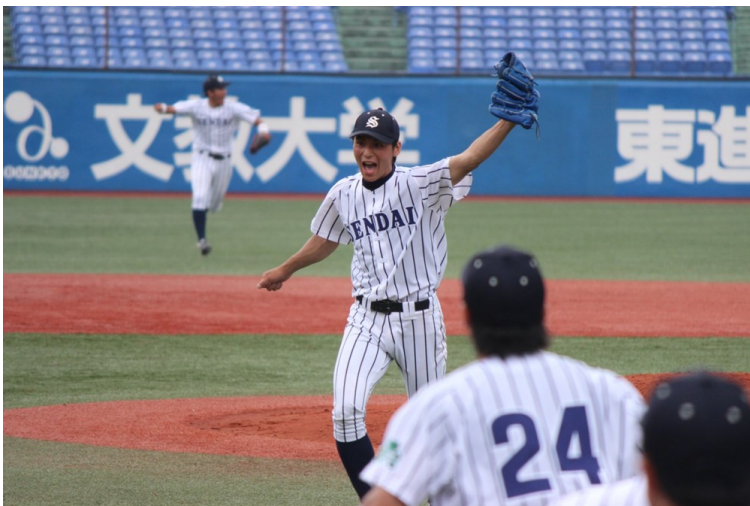
栄養士実力認定試験の受験割合は、栄養士養成課程で70%、管理栄養士養成課程で30%であり、今後全校参加を目標とする。また将来の国家試験化に向けてガイドライン及びコアカリキュラムを作成中である。

最後に、栄養士の就職率の向上に向け、今後の新規職域開拓先として教育、介護福祉方面へのアプローチが進むとのことであった。そこで運動栄養学科においても本学の強みである教育、健康福祉分野と協力をしながら、今後の学生指導をすることが有益であると思われる。

栄養士養成に関する流れを知ることが、今後の運動栄養学科の教育方針を考える大変貴重な機会をいただきました。心より感謝申し上げます。

<報 告：講師 横田由香里>

硬式野球部、接戦を制して全国初出場初勝利—準々決勝へ



勝利の瞬間、喜びを表す熊原投手＝明治神宮野球場

6月11日（水）、神宮球場（東京都新宿区）で「第63回全日本大学野球選手権大会」の2回戦（本学はシード校で2回戦から登場）が行なわれ、仙台大学（仙台六大学野球連盟）が福岡大学（九州六大学野球連盟）を延長10回タイブレークの接戦の末に3-1で下し、見事、全国大会初出場を初勝利で飾りました。

試合は、息詰まる投手戦。先発・熊原健人投手（体育学科4年—宮城・柴田高校出身）は、5回裏1死2塁のピンチで相手に2塁打を打たれ1点を失います。さらに、次打者にも

つるたごうや
右前に運ばれますが、右翼手・鶴田剛也選手（体育学科2年—栃木・作新学院高校出身）の好返球で追加点を与えませんでした。相手投手に完全に抑え込まれていた仙台大学打線でしたが、7回
わたなべゆうすけ
表、代打・渡邊優佑選手（体育学科4年—東京・帝京高校出身）がようやくチーム初安打を打ちま
うすいしん
した。八回表、この回先頭の5番・薄井新選手（体育学科3年—栃木・矢板中央高校出身）が左越えソロ本塁打を打ち、遂に同点に追いつきます。そして試合は、1死満塁から始まるタイブ
まつもとももたろう
レーク方式の延長戦へ突入。4番・松本桃太郎選手（体育学科2年—北海道・北海高校出身）の鋭い打球が敵失を誘い勝ち越しに成功。さらに相手の捕逸で2点目を奪い3-1。最後は、福岡大学の攻撃を熊原投手が抑え、全日本大学野球選手権大会初勝利し、準々決勝にコマを進めました。

仙台大学の1塁側スタンドには、本学硬式野球部OBや同窓生、姉妹校である明成高校の吹奏楽部の生徒、選手の父母らに加え、柴田町の地域の方々も応援に駆け付け、計約450名の皆様が選手に大声援を送り続けて下さいました。誠に有難うございました。

硬式野球部、全日本選手権ベスト4ならず—準優勝校の神奈川大学に1-3



7回途中から登板し好投する野口投手＝神宮球場

6月13日（金）、神宮球場（東京都新宿区）で「第63回全日本大学野球選手権大会」の準々決勝が行なわれ、仙台大学（仙台六大学野球連盟）は神奈川大学（神奈川大学野球連盟）に1-3で敗れ、ベスト4進出は果たせませんでした。

かとうだいち
仙台大学は0-1の2回表、1死2・3塁から8番・加藤大地選手（体育学科4年—千葉・東海大望洋高校出身）の内野ゴロの間に同点に追いつきます。しかし、1-1で迎えた

くまばらけんと
6回裏、先発・熊原健人投手（体育学科3年—宮城・柴田高校出身）が粘投するも連打を許し、勝ち越されました。その後、7回裏に適時2塁打を打たれ、3点目を奪われたところで降板。救援した
のぐちりょうた
野口亮太投手（体育学科4年—群馬・前橋商業高校出身）が踏ん張り、1回2/3を無安打無失点3奪三振に抑える見事な投球を見せました。9回表、1死2・3塁の同点機にあと一本が出ず、1-3で惜敗しました。

この日も仙台大学の1塁側スタンドには、本学硬式野球部OBや本学応援団・チアリーダーのOB・OG、同窓生、選手の父母、地元柴田町の地域の皆様など約200名が応援に駆け付け、選手に大声援を送って下さいました。準々決勝で敗れはしましたが、仙台大学ナインの戦いぶりにスタンドは立ち上がり、大きな拍手で健闘を称えて下さいました。

仙台六大学野球春季リーグ戦及びリーグ史上初のプレーオフ、第63回全日本大学野球選手権大会では、皆様方からたくさんの応援やご支援を頂き、関係者一同心から感謝申し上げます。

男子サッカー部、天皇杯県予選一準決勝敗退



得点を決め喜ぶMF高橋選手(8)＝仙台大学サッカー・ラグビー場

6月8日(日)、仙台大学サッカー・ラグビー場で「天皇杯全日本サッカー選手権 宮城県予選」の4回戦が行なわれ、仙台大学男子サッカー部は東北学院大学と対戦し、3-0(前半1-0、後半2-0)で勝利しました。5月25日(日)の総理大臣杯全日本サッカートーナメント東北地区予選の準決勝で、1-2で敗れた東北学院大学にリベンジした形となりました。得点は、前半にMF くまがいたつや 熊谷達也主将(体育学科4年一柏レイソルユース出身)、後半にMF たかはしこうじ 高橋晃司選手(体育学科3年一青森山田高校出身)とMF よしだゆうや 吉田優哉選手(スポーツ情報マスメディア学科2年一岡山学芸館高校出身)が挙げました。

6月22日(日)、宮城県サッカー場で同予選の準決勝が行なわれ、本学は東北社会人リーグ1部の強豪コバルトーレ女川と対戦。自力に勝る相手に1-3で敗れ、惜しくもソニー仙台FCとの代表決定戦に進めませんでした。得点は、前半に たかはしあつし 高橋惇選手(スポーツ情報マスメディア学科4年一ベガルタ仙台ユース出身)が決めました。

引き続き、仙台大学男子サッカー部への熱い応援をよろしくお願い致します。



ヘディングで激しく競り合うMF吉田優哉選手(27)。相手DFは、木内瑛選手(4)(平成25年体育学科卒一秋田・西目高校出身)＝宮城県サッカー場

空手道部、個人形・加藤まな選手(現代武道学科3年)が3年連続優勝 ／東北地区大学体育大会



写真：本人提供

3年連続優勝を果たし、Vサインする加藤選手(前列中央)＝岩手県営武道館

6月29日(日)、岩手県営武道館で「第65回東北地区大学体育大会 空手道の部 女子個人形」が行われ、本学の加藤まな選手(現代武道学科3年一宮城・聖ウルスラ学院英智高校出身)が見事3年連続優勝を果たしました。

加藤選手は、7月6日(日)に大阪市中央体育館で開催される「第58回全日本学生空手道選手権大会」に出場します。「もう一度、筋力トレーニングと体幹トレーニングで身体の芯を鍛え、全国大会に臨みたい。去年は予選敗退という結果に終わったが、今年こそ予選突破を果たしたい」と話しました。

<空手の形(型)>

一人で演武する競技です。技を決まった順序で演武し、その練度・正確さ・緩急・その他の諸要素を総合的に競うものです。演武時間は形によって数十秒から数分間続きます。

女子柔道部—代表戦の末、東海大学に惜敗／全国ベスト8逃す



東海大学に代表戦で敗れた中村選手は悔し涙を流した＝日本武道館

6月28日（土）、団体戦（5人制）で争う「全日本学生柔道優勝大会（女子23回）」が日本武道館（東京都千代田区）で開催されました。本学女子柔道部は2回戦で近畿大学に2-1で勝利し、3回戦に進出しましたが、強豪・東海大学に代表戦の末に敗れ惜しくもベスト8を逃しました。

近畿大学戦では、先鋒・伊藤美麗主将（現代武道学科4年—静岡・藤枝順心高校出身）と次鋒・工藤千佳選手（現代武道学科3年—青森・五所川原農林高校出身）が一本勝ちを収め、チームの勝利に貢献。

ベスト8をかけた東海大学戦は、激闘となりました。先鋒・伊藤美麗主将（同）が2試合連続となる一本勝ちを収め、チームに勢いをつけ、次鋒・工藤千佳選手（同）

と中堅・下沢由季選手（現代武道学科1年—埼玉・桶川高校出身）が引き分けに持ち込みましたが、副将・鈴木真佑選手（体育学科4年—京都文教高校出身）が敗れ、1-1で勝負は大將戦へともつれ込みました。大將・中村優選手（現代武道学科3年—静岡・藤枝順心高校出身）は相手選手と激しく攻め合うも両者決め手のないまま引き分け。試合は引き分けた階級の中から1組が抽選され、大將の代表戦が行なわれることになりました。代表戦でも大將・中村選手（同）は果敢に攻めましたが、試合中盤に一本を取られ、本学は3回戦敗退も16強入りを果たしました。

引き続き、本学女子柔道部への温かいご声援を宜しくお願い致します。



2試合連続となる一本勝ちを収めた伊藤主将（左）